

「記憶」と「余白」ー土をめぐる風景の継承と多様なプログラムを許容する計画のフレキシビリティ

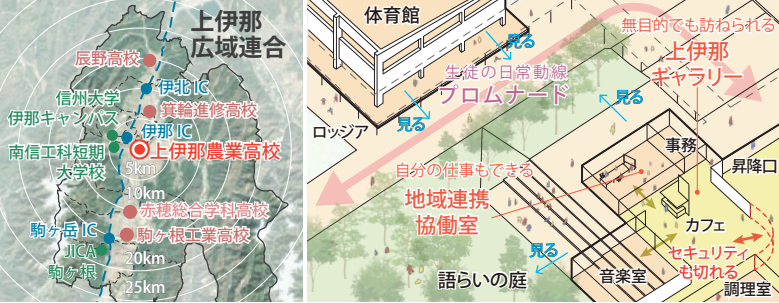
産業と学問が一体となる伊那谷の街の拠点として、統合する **3 科 4 校の記憶** を受継ぎ発展する計画です。
変動する専門学科教育の現状と展望から、教育関係者との柔軟な設計調整を可能とする **余白のある＝計画自由度の高い** 学校を構想します。
座学・研究・実習・発表など様々な **行為 (アクティビティ)** に着目し、各室の性質に合わせ、敷地内で適切な距離を持つように配置します。



産学一体「広域」共創拠点としての総合技術新校

技術高校とは普通教育に加え、地域産業から学びを受け人材を輩出することで産業循環を支える、地域共創拠点と考えます。そのような拠点として、統合する **4 校は八つの市町村から構成される上伊那広域連合**の中で、それぞれ近隣の産業や地域と深く関わりながら学びを育んできました。これら4校が統合して出来るこの総合技術新校は、近隣地域だけではなく、上伊那全域の産業圏の未来を支える新たな**広域共創拠点**となるものです。

地域の人が気軽に訪れ**長時間滞在**できるスペース (**上伊那ギャラリー**) をセキュリティに配慮しながら配置。時には学校内に入り込み**共創 (クリエイティブラボ)** する、名実備わった**滞在型**の地域共創拠点づくりを目指します。



既存樹木の配置を引き継ぎながら、歩車分離を実現した生徒の通学動線と地域ゾーンが自然に交わる配置

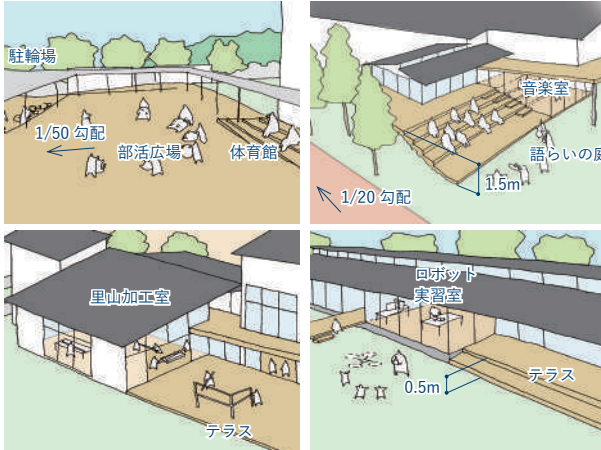


土の記憶を残す、樹木と地形を引継ぐ計画

全ての農地はもちろん、敷地に残る豊かな既存樹木や地形を最大限尊重し残します。**農業高校としての土の記憶**を受け継ぎながら、既存環境を手掛かりに新しい**総合技術校としてのアクティビティの場を埋め込んでいく**、継承と発展の配置計画です。



既存樹木の配置を引き継ぎ、歩車分離を実現しながらも生徒の通学動線と地域ゾーンが自然に交わる配置

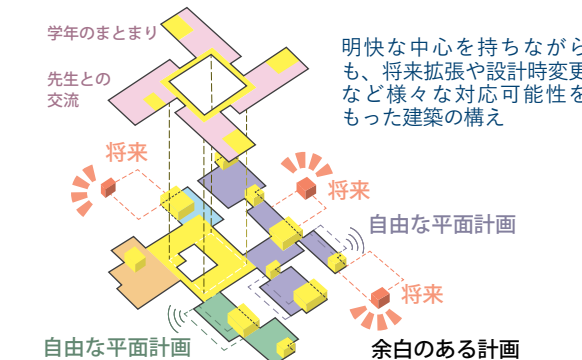


微地形に寄り添い様々な場を作る

教育のイノベーションに向けた展開可能性

明快な構成とフレキシブルな計画で、基本計画策定時にさまざまな意見を集約・調整が可能な土台となる計画を提案します。**地域の教育事情を最優先に**、総合技術新校ならではの「学びの連携プラットフォーム」のための構成です。

融合の象徴となる核＝コア・フォレストを中心に、農・商・工が**独立性を保ちながら緩やかに**相互関係する、融合と自立の両立を実現します。



コア・フォレストは同時に**学科横断的な共有スペース**です。1F は中央から周囲に伸びる**計画自由度の高い専門学科ゾーン**、学科ゾーンの中にはエリアごとに関節のように**ハブとなる FLA と専門教室**で構成されます。

2F は3学年の各ゾーン、分教室と職員エリアを**風車状**に配置。学年の帰属意識を保ちながら、先生と生徒の一体感を生み出します。**FLA 同士が上下でつながり**、動線の選択性を担保します。

土の記憶・既存環境を最大限に保存する配置計画

豊かな並木道と正門、体育館と縁側、思い出の芝生広場の配置を変更せず、生徒/OBOG/地域の大人、この場所で過ごした**営みの記憶**を引き継ぎます。**4 校すべて**調査とヒアリングを通じて要素を発見し計画に埋込みます。敷地の余白は**将来建替スペース**、技術の発展に応じた専門科教室の増築や改変にも対応します。地域の大人の**多数が車で来校する実状**を考慮し、**駐車場を昇降口側**にまとめて配置。同窓会館側を車両入口として、**地域ゾーンと隣接しながら生徒動線・地域ゾーンとの歩車分離**に配慮します。校舎内は段差を作らずバリアフリーを実現します。



3 科 4 校を融合しながら計画の自由度を確保する校舎配置

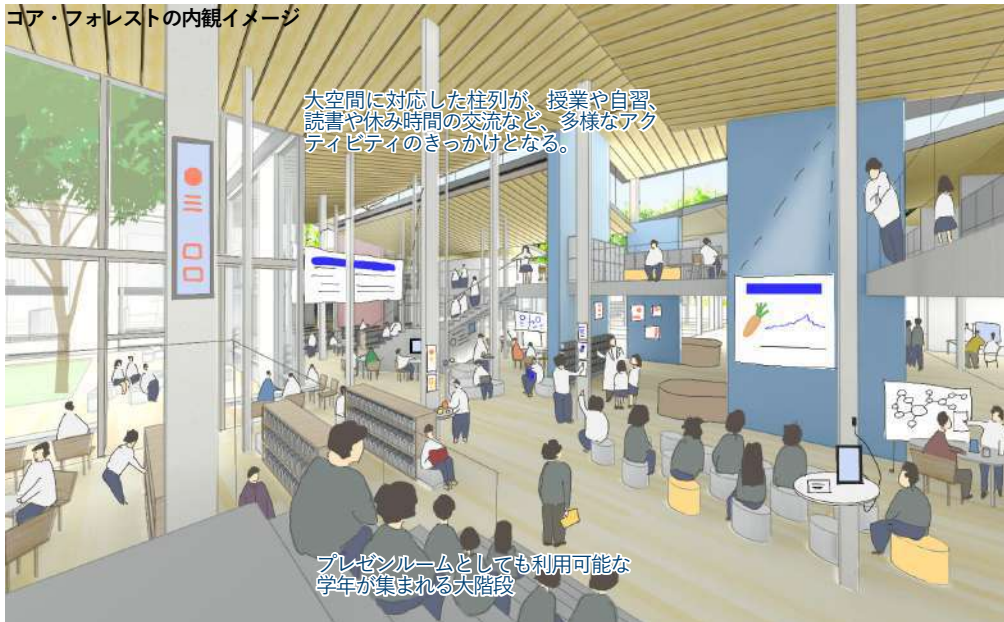
土・樹木・農地の既存環境を最大限維持すること、新設校舎と既存利用施設との動線を考慮し、グラウンドと校舎の位置関係は変更しない計画を提案します。

	A: 南東側配置案	B: 敷地中央配置案	C: 北西側配置案
既存棟・敷地との関係	✕ 農業科の既存建物との距離が遠い	△ 一階に大きな高低差が生じ移動が難しくなる	◎ 既存の建物同士に中央に配置が可能
既存樹木の保護	✕ グラウンド確保のため既存樹木の大規模な伐採が必要	✕ グラウンド確保のため既存樹木の大規模な伐採が必要	◎ 既存樹木の位置を配慮可能
工事中の影響	◎ 仮設校舎無しで、短期間の建て替えが可能	◎ 仮設校舎無しで、短期間の建て替えが可能	◎ 仮設校舎が必要。予定施工期間内に施工可能

次に、3 科 4 校の融合、敷地の有効活用、既存施設との関係、余白のある計画性の観点から比較し、明確な中心+有機的なフィンガープランを提案します。

	C-1: 南西・北東谷型配置案	C-2: センターコア・コンパクト案	C-3: センターコア+フィンガー案
既存棟・敷地との関係	◎ 既存棟との距離が近く、連携が容易	✕ 既存棟との距離が遠く、連携が希薄	◎ 既存棟との距離が近く、連携が容易
動線	✕ 動線が長い	◎ 動線が短い	◎ 各科の HR から、専門教室までの距離が適切
学習空間	△ 片廊下の室が多く FLA が単調	◎ 中廊下型で FLA の空間が豊か	◎ 中廊下型で FLA の空間が豊か
学科間の融合	△ 専門室と共創空間が遠く、科の独立性が高い	◎ センターコアを介して、科同士が交わりやすい	◎ センターコアを介して、科同士が交わりやすい
既存樹木の保護	✕ 谷の位置と既存の樹木が多い位置と重なる	◎ 既存樹木との関係性が希薄	◎ 既存樹木の位置に最も配慮したボリューム配置
工事中の影響	◎ 段階的な施工が可能	✕ 工期の分割が難しい	◎ 段階的な施工が可能

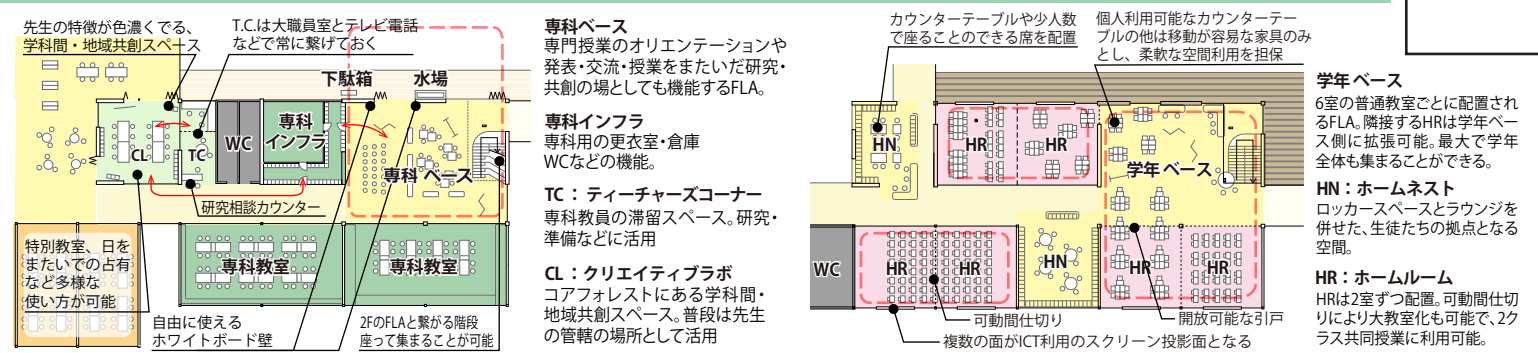
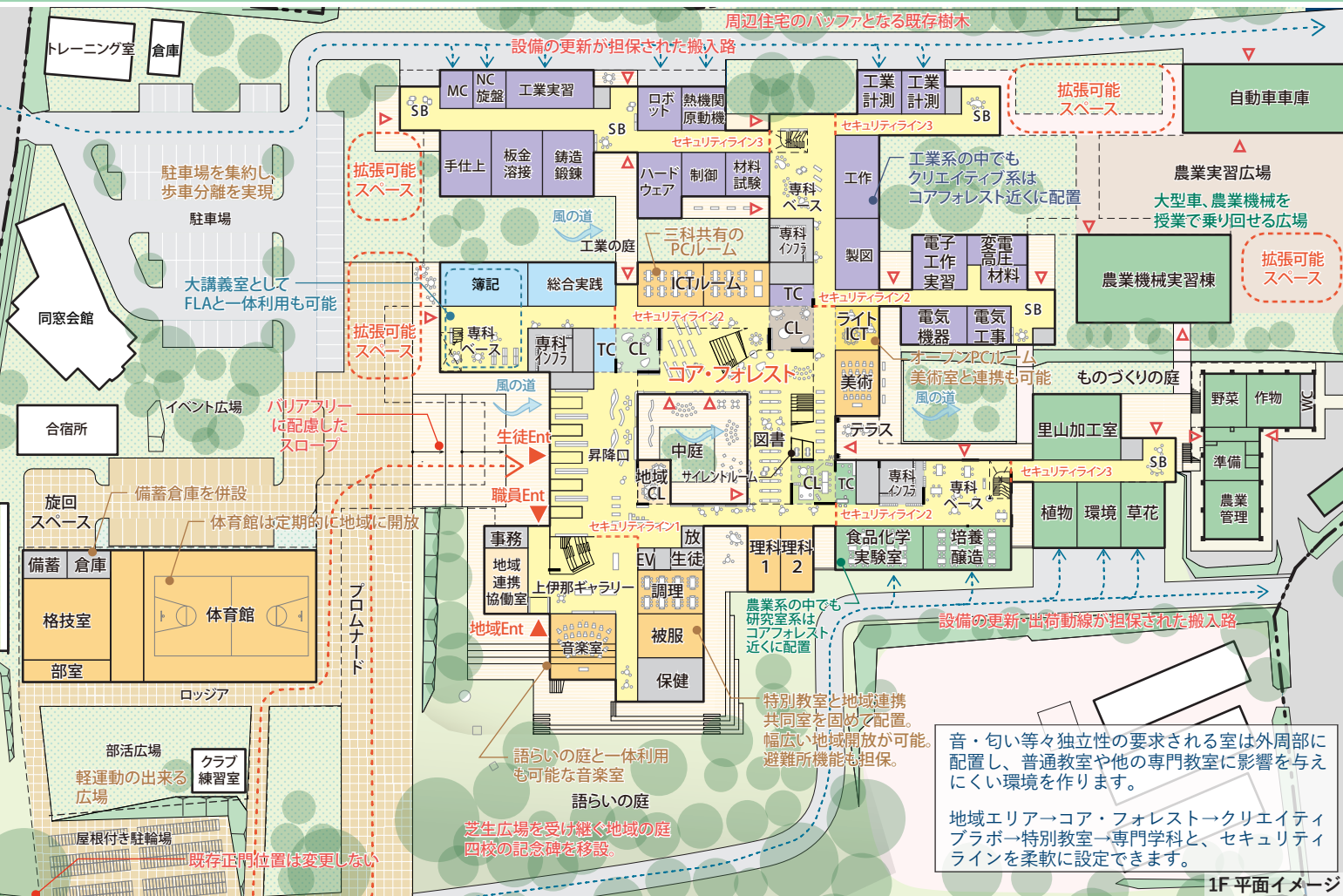
明快な「核（コア）」により生まれる「余白」、担保される計画のフレキシビリティ



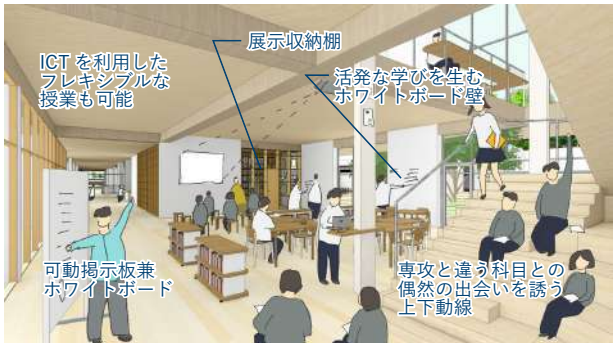
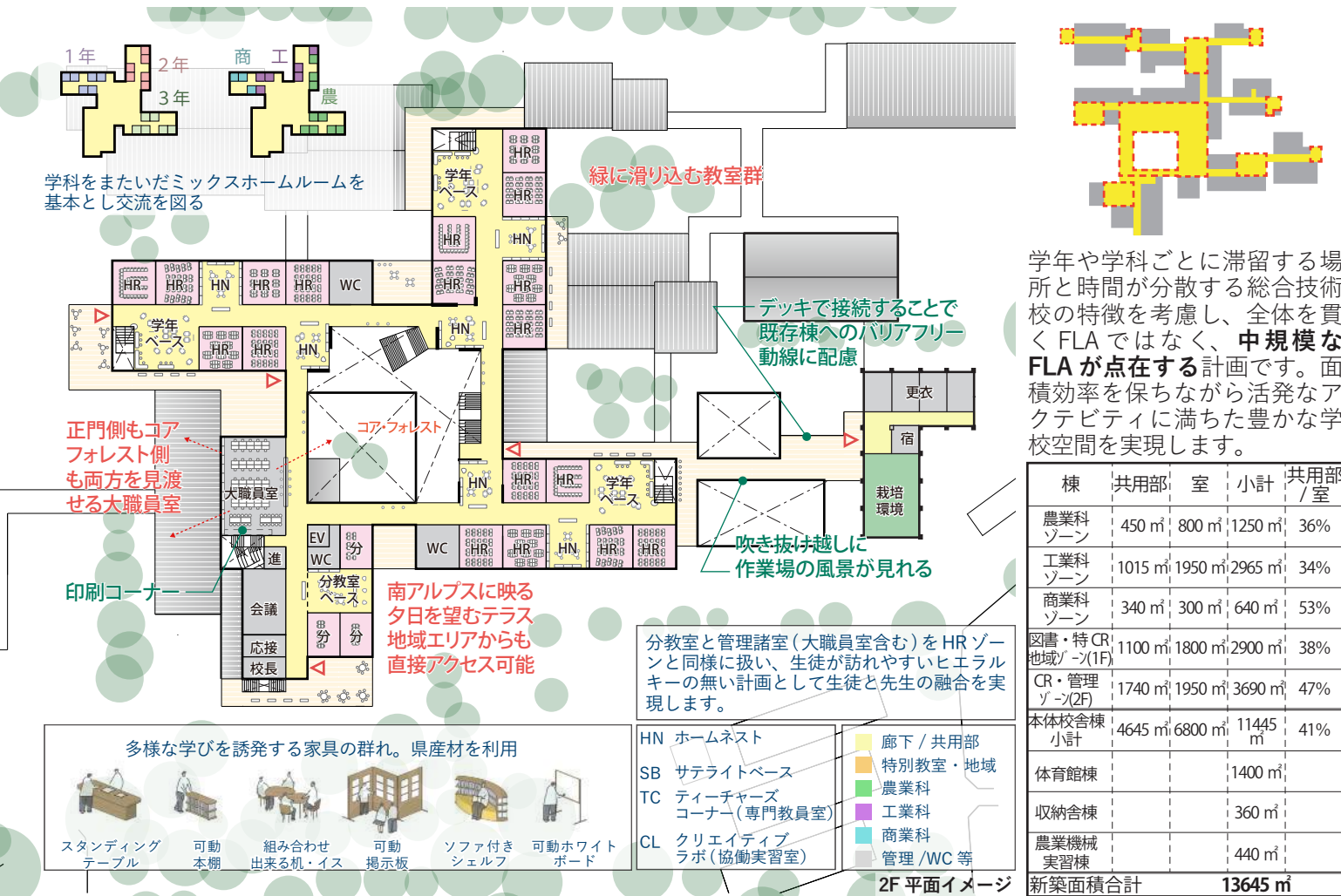
中央にメディア機能を包含したコア・フォレストを配置し、イノベティブな協働を促進します。コアフォレストには、様々な機能を持つポスト柱の柱列「**止まり木**」が点在し、多様なアクティビティを誘発します。



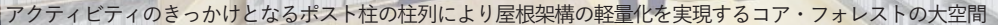
三科を融合し地域とつながる核（コア・フォレスト）と、フレキシブルな計画を許容する専門エリア



滞留型 FLA を持ち各学科と有機的につながる HR ゾーンと先生と生徒が融合する管理エリア



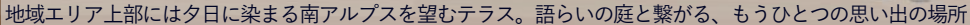
棟	共用部	室	小計	共用部 /室
農業科 ゾーン	450 m ²	800 m ²	1250 m ²	36%
工業科 ゾーン	1015 m ²	1950 m ²	2965 m ²	34%
商業科 ゾーン	340 m ²	300 m ²	640 m ²	53%
図書・特 地域ゾ ン(1F)	1100 m ²	1800 m ²	2900 m ²	38%
CR・管理 ゾ ン(2F)	1740 m ²	1950 m ²	3690 m ²	47%
本校校舎棟 小計	4645 m ²	6800 m ²	11445 m ²	41%
体育館棟			1400 m ²	
収納舎棟			360 m ²	
農業機械 実習棟			440 m ²	
新築面積合計			13645 m ²	



This architectural section drawing illustrates a multi-story building complex with a central courtyard. The building features a mix of green walls, large glass windows, and a dark roof. Various rooms and outdoor spaces are labeled in Japanese:

- 屋外デッキ** (Outdoor Deck): Located on the upper level of the left wing.
- 美術室** (Art Room): Located on the ground floor of the left wing.
- 農業科CL HN** (Agriculture Department CL HN): Located on the upper level of the left wing, with a note: "コア・フォレストにしながら、この部屋を通して、各専科の活動を感じることができ。" (While maintaining the Core Forest, it is possible to feel the activities of each specialty through this room).
- 中庭** (Central Courtyard): The central outdoor space with trees and a note: "植栽や舗装など、関係者とともにデザインしていく共創の中庭空間" (A co-created courtyard space where landscaping, paving, etc., are designed together with stakeholders).
- 地域CL** (Community CL): Located on the upper level of the right wing, with a note: "地域マイスターの常駐を想定。学生と地域の繋ぎの拠点。" (Anticipating the permanent residence of community masters. A base for connecting students and the community).
- 大職員室** (Large Staff Room): Located on the upper level of the right wing, with a note: "職員室は正門側をみる事が出来る位置に配置" (The staff room is positioned so that the main entrance can be seen).
- 昇降口** (Entrance/Exit): Located on the ground floor of the right wing.
- コア・フォレスト** (Core Forest): A central vertical space with a note: "3~4人のグループで利用可能なサイレントルーム" (A silent room usable by groups of 3-4 people).
- 床吹き出しの空調** (Floor-mounted air conditioning): Located on the ground floor of the left wing.

The drawing shows people in various rooms and the courtyard, indicating the building's use as a community and educational hub.



This architectural section drawing illustrates a multi-story building with a modern, open design. The building features a prominent central atrium and a large, open-plan space on the upper floor. Key areas are labeled in Japanese:

- 地域CL** (Regional CL): Located on the upper floor, this area is described as a "regional master's permanent residence" and a "point of connection for students and the community." It is situated near a "shared courtyard space" (中庭空間) and a "community center" (地域センター).
- 大職員室** (Large Staff Room): Located on the upper floor, this room is described as being "positioned where it can be seen from the main entrance" (正門側をみる事が出来る位置に配置).
- 開放的で相談しやすいカウンター** (Open and easy-to-consult counter): Located on the upper floor, this counter is designed for open consultation.
- 昇降口** (Entrance/Exit): Located on the ground floor, this entrance/exit is designed for easy access.

The drawing also shows a "shared courtyard space" (中庭空間) and a "community center" (地域センター) on the ground floor, and a "shared courtyard space" (中庭空間) on the upper floor. The building is surrounded by trees and greenery, suggesting a campus or community setting.

天井は現しとし、ケーブルラックで配線し、将来的な変化に対して柔軟な断面計画とする

太陽光

太陽光パネル（集熱）

太陽光

庇をしっかりと出し、日射を遮蔽し外壁のメンテナンス性に配慮する

ハイサイドライトで北・東面から柔らかな光を取り入れる

集熱器（ダクトファン）

HR

廊下

個別空調（教室）

集熱器（ダクトファン）

体育館

HR

廊下

HR

基礎は直接基礎とし、杭は用いない

吹き出し空調

ロッジア

蓄熱槽

④ 事業実施に係るプロセスマネジメント

3科4校、統合する学校の歴史を受継ぎ未来につなげる協働のプロセス

「自己を磨き、未来をデザインできる力を育てる高校」の学校像の通り、学校づくりの段階から学校地域が自分ごととして共に作り上げるプロセスを計画します。

■統合校の記憶を未来につなげるプロセス

上伊那農業 / 駒ヶ根工業 / 辰野 / 箕輪進修、4校すべてから新校に引き継ぐべき歴史や記憶と、現在の課題を関係者と共有し計画に反映します。4校の同窓生から、新しい「母校」として愛着を持ってもらえる学校づくりを目指します。

上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会との連携を前に、プロポーザル案にこだわらない柔軟な検討を行います。

■「共につくる」を実現する組織作りとWSのプロセス

基本計画段階から地域の関連機関と協議し地域連携ワーキンググループを設立。初期から設計と地域連携活動を連動させることで、施設計画と探求的学びを接続します。

ワークショップや会議は関係者ごとに実施。取り残されるもののないプロセスで、行政・学校・生徒・地域・保護者やOBOGなど皆が当事者となる「学校づくり」を目指します。

確実な業務遂行を実現する、統合開校後まで見据えた一元的な進捗管理と明確なマイルストーン設定

多くの公共施設経験を持ち、人・工程・コスト管理の責任を持つ管理技術者（統括）と、多くの学校施設の経験を持ち、学校計画の責任を持つ意匠主任の手動の元、一体的に両社の担当者が同じ場所で業務を行うことで、確実な業務遂行を実現します。基本計画時点から、統合開校後まで見据えたスケジュール表およびマイルストーン策定を行い、関係者が常に長期的視野をもって多岐にわたる情報を把握できるように努めます。また、コア会議とワークショップのみならず、工程管理、コスト管理、分科会、さらには施設検討だけではなく教育検討のプロセスまで、あらゆる要素を一元化したスケジュール表で管理し、「いつ / だれが / なにを」を意識した業務推進を行い、適切な時期に適切な決定が行えるようコントロールします。

